

定例研究会要旨

日時：平成 21 (2009) 年 7 月 29 日 18:30～20:30

会場：東京外国語大学 語学研究所

題目：「主語」の選び方—魯迅「故郷」を題材に—

発表者：加藤 晴子（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授/中国語学）

中国語の基本語順は SVO であり、このことから中国語は英語に似ているとの一般的な見方が存在する。しかし、文を発する際の基本的発想を見ると、中国語は英語よりもむしろ日本語に近い印象である。それは以下のような文が中国語において日本語においてと同様、決して特殊な文ではないことによるものと思われる。

这种书买的人不多。¹

この種の本は買う人は多くない。

文頭の二重下線および下線で示した「主語」的な部分は、中国語と日本語とで一致している。文を発する際の基本的発想の現われのひとつとして、このような「主語」の選び方の比較が可能なのではないかと考え、中国語と日本語に英語を加えて「主語」的部分を抽出調査してみた。

調査の材料として今回は、「中日対訳コーパス」(北京日本学研究中心2003.7)所収の魯迅《故乡》と『故郷』、およびその英語訳、*MY OLD HOME* by Lu Xun, (<http://www.chinarice.org/luxun/my-old-home.pdf>)を利用した。

まず、抽出対象であるが、中国語においては、ふたつの構成部分に分けた際の前の部分を、介詞句および副詞句を除き、すべて「主語」とした。二段階、三段階、……と分けられる場合も、それぞれの前の部分を「主語」とした。節、修飾語内部についても、上に準じて考えた。日本語訳においては「は」「が」「も」「の(節内)」などに伴われる成分を「主語」とした。特にある人・物の存在をいう文については、文頭のない「～が」も抽出した。英語訳においては動詞の主格である成分を「主語」とした。また、それより前にあって時間や場所を指す前置詞句についても別途抽出した。

次に抽出したものを以下のとおりに分類し、それぞれ数を数えた。

I 人：他，母亲，这些人 / 彼は，母が，連中が / he, Mother, those people など

¹ 呂叔湘(1986)〈主谓谓语句举例〉《中国语文》1986年第5期，pp.334-340より。訳は発表者。

II その他

- a 時間：現在，冬天 / いまは，冬場は / (英なし) 別途 In winter など
- b 場所：海辺，门外 / 海岸には，外では / (英なし) 別途 At the seashore など
- c 身体の一部：頭，圓脸 / 頭には，まる顔は / her hands, his round face など
- d 事物：信，那灰 / お手紙は，その灰は / the voices, the ashes など
- e 動物：那鸟雀，鸡 / 小鳥は，ニワトリは / the birds, hens など
- f 指示詞・疑問詞：这，什么 / これが，なんでも / this, it, there など
- g 動作：出门 / 外に出るには / (英なし) など

調査の結果，以下のような傾向が見られた．

まず，I 人を指す「主語」とIIその他の「主語」の割合を見ると，英語>中国語>日本語の順に人を指す「主語」が少なくなっていく．

次に，IIその他 a～g の「主語」の指すもののうちわけを見ると，中国語と日本語がともに b 場所，c 身体の一部，d その他事物を表わす語句，および f 指示詞(具体的指示物あり)が「主語」に占める割合が高かったのに対し，英語では d その他事物を表わす語句と f 指示詞(具体的指示物のない“it”“there”)が「主語」に占める割合が高く，またこの他文頭には，前置詞(“at”“in”など)のついた a 時間を表わす語句が多く見られた．

これらのことから「主語」の選び方について，中国語は英語と日本語の中間的な性格を持つと同時に，英語よりも日本語に近いといえるのではないだろうか．

ただし，今回，各言語で「主語」としたものが，果たして単純に比較をしようのものであったかどうかについては疑問が残るところである．また，中国語と日本語の「主語」の選び方が近いというのは，具体的にどこまでが同じでどこからが異なるのか²，今後，さらなる精査を期することとしたい．さらに，話し手の視点の置き方と「主語」の選び方との関係³も興味のあるところである．

²小野秀樹 2008(『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』白帝社，2008年10月，pp.150-209)では，中国語の場合「対格」が主題化するには，話者が強い関心を寄せる対象でありかつ文脈指示または現場指示になっていなければならない，日本語よりも条件が厳しいとしている．

³澤田弘子・中川正之 2004(「中国語における語順と主題化——主題化とその周辺概念を中心に——」，『主題の対照』(増岡隆志編「シリーズ言語対照〈外から見る日本語〉」第5巻)，くろしお出版，pp.19-42)では，中国語では主語化と主題化の区別はあいまいであるが，文脈や状況に基づいて話し手がどの要素に視点を置いて話しているのかを示す，という点で共通している，とのみ述べている．